

平成26年度

ウチナーンチュ子弟留学生修了報告書



沖 縄 県

公益法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

はじめに

ウチナーンチュ子弟留学生受入事業は、海外に在住する沖縄県出身移住者子弟から優秀な人物を県内の大学や県内企業、伝統芸能修得機関（以下「大学等」という。）で修学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を通して、将来的に本県と県系人社会とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県と出身国との国際交流に寄与せしめることを目的としています。

昭和44年度（1969年）の事業開始以来、本年度を含め602名の留学生を受け入れてきました。本事業を修了し帰国した留学生OB・OGは、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しています。また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成26年度は、ブラジル2名、ペルー2名、アルゼンチン2名、ボリビア1名、アメリカ合衆国2名の計9名が来県しました。そのうち2名が琉球大学、1名が沖縄国際大学、2名が名桜大学、2名が沖縄県立芸術大学にて修学し、1名がやふそ紅型工房、1名が沖縄県三線製作事業協同組合において伝統芸能コースの研修を終えました。また1名が名桜大学での修学後、一般財団法人沖縄美ら島財団において研修を行うなど、勉学や技術修得に励みました。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。日本語弁論大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

最後に、本事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄国際大学、名桜大学、沖縄県立芸術大学、やふそ紅型工房、沖縄県三線製作事業協同組合、一般財団法人沖縄美ら島財団、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成27年3月

沖縄県知事公室長

町田 優



平成26年度ウチナンチュ子弟留学生修了式 平成27年3月12日 於・サザンプラザ海邦

高良副知事表敬 平成 26 年 5 月 9 日 於：県庁 6 階 第 2 特別会議室



財団 大城理事長表敬 平成 26 年 5 月 16 日 於：財団 3 階ホール



目 次

○ウチナーンチュ子弟留学生（9名）

・可愛い子には旅をさせよ	大田 愛菜 ……………	1
	(ポリビア)	
・私の沖縄プライドをさがす	フォング サラ アリス ミチ ……………	8
	(アメリカ)	
・一生の経験	比嘉門 ビートル 秀樹 ……………	12
	(ブラジル)	
・Mi Okinawa	渡嘉敷 国頭 ダニエラ ……………	17
	(ペルー)	
・ルーツを探し、自分を学び	胡 コリン マイケル ……………	23
	(アメリカ)	
・沖縄大好き♥忘れられない思い出	名嘉眞 新垣 メラニー クリスティー ……	26
	(ペルー)	
・「島人ぬ宝」の追求	照屋 ルジア 美雪 ……………	33
	(ブラジル)	
・新しい角度から見た沖縄	新垣 ホセ ルイス ……………	40
	(アルゼンチン)	
・沖縄での素晴らしい生活	新垣 バネサ ……………	45
	(アルゼンチン)	

平成26年度 ウチナーンチュ子弟留学生名簿

大田 愛菜



出身国：ポリビア
伝統芸能修得コース
やふそ紅型工房

フォング サラ アリス ミチ



出身国：アメリカ
伝統芸能修得コース
沖縄県三線製作事業協同組合

比嘉門 ビートル 秀樹



出身国：ブラジル
沖縄県立芸術大学
科目等履修生
美術工芸学部

渡嘉敷 国頭 ダニエラ



出身国：ペルー
沖縄県立芸術大学
科目等履修生
美術工芸学部

胡 コリン マイケル



出身国：アメリカ
琉球大学
科目等履修生

名嘉真 新垣 メラニー
クリスティー



出身国：ペルー
琉球大学
科目等履修生

照屋 ルジア 美雪



出身国：ブラジル
沖縄国際大学
科目等履修生

新垣 ホセ ルイス



出身国：アルゼンチン
名桜大学
科目等履修生

新垣 バネサ



出身国：アルゼンチン
名桜大学
科目等履修生
企業研修
(一財) 沖縄美ら島財団

可愛い子には旅をさせよ

大田 愛菜（ボリビア）

琉球びんがた事業協同組合 やふそ紅型工房

「可愛い子には旅をさせよ」とは、自分の子供が可愛いのなら、親の元において甘やかさないで、世の中の辛さや悲しみを経験させた方がいいということわざです。私は長い一年間、親をはなれて、この留学生活でいろいろと学んで、実感して、身につけて、沖縄、ボリビア、ウチナンチュネットワークのために目標の留学がすごく自分自身のためになりました。ウチナンチュ子弟留学生26年度に参加させてくれてありがとうございました。

修了報告として沖縄に留学して見たもの、気づいたもの、感じたものを伝えたいと思います。帰国しても伝えます。

沖縄というところは：

沖縄の人はボリビアの人と同じくビールが大好き。南米でもボリビアではビールが大好物。ただ気づいたことです。

出前授業としてペアーレ沖縄で沖縄のおじいーおばあーたちと県費留学生の活動として交流しました。ボリビアのコロニアオキナワ移住地のおじいーやおばあーたちと全然変わらず、沖縄の高齢者もオキナワの日系一世の方も同じく元気いっぱいでした。

沖縄と日本列島は違う。琉球王国時代からのチャンプルー文化があって、他人との接し方も違う。沖縄県系人たちはどこいってもどこに住んでもウチナンチュ、皆が家族なのです。日本列島の人は海外では他の日本人と会ったら知らんぷりをするそうです。沖縄の人たちの考え方は「人々、皆同じ地球で住んでいる、皆兄弟だ」と思っているのではほとんど誰も差別しません。例えば平和記念公園の米軍の兵隊さんたちの名前まで刻まれています。敵だからと言ってそ

こには「名前を入れない！」ではなく、命の宝、同じ人間として「恐ろしい戦争で命をおとしたのだ！」と言って刻んだんだと思います。

初めて沖縄に着いたとき、耳にしていた沖縄の印象が違っていました。沖縄は日本化していました。でも沖縄は小さくて広いところで、少しでも中心からはなれたら違う世界です。山原や離島は沖縄の違う顔を見せてくれます。



沖縄戦とは：

私は戦後沖縄県系人移民者たちが建てた村、コロニア・オキナワ移住地で育ちましたが沖縄戦のことはあまり知りませんでした。なぜ沖縄は平和にこだわるのかと思っていました。それは戦争の恐ろしさと辛さを味わったからです。沖縄戦とは米軍が日本列島への到着を伸ばすための時間かせぎの戦争でした。米軍には沖縄は非常にいい戦略な場所でした。この戦争の到来は市民たちの死んだ数が両側の軍の数よりすごく多かった。特に米軍が沖縄に着陸して三日目の市民や日本軍たちがかくれていたガマを攻撃したとき。

ボリビアの国歌の歌詞に“morir antes que esclavos vivir”「奴隷と生きるより死んだ方がいい」というところがあります。これは沖縄戦での米軍が最初におりた島、渡嘉敷島の当時に似ているのを気づきました。その島では戦った兵

隊より自殺した老人、女や子供の数がすごく多かったこと。命は宝というが、その状況の話をきいて怖くて死んだ方がましだと言う気持ちもわからないではない。私も自殺していたかもしれません。

JICA 横浜国際センターでの見学に「沖縄戦を通して学ぶ」で戦争は人を狂わせるからだめだ。人間が人間らしさを失う場所だから。沖縄戦から70年がすぎて戦争に直接ふれた人たちはいなくなり、これから私たちが戦争の辛さを伝えないといけないのです。

伝統工芸で気づいたもの：

沖縄の伝統工芸は日本列島と比べて歴史が浅いですが、特徴的です。ここもチャンブルー文化です。私がこの留学で選んだ紅型は琉球王国時代のもので、色は明るくてコントラストが強く、また模様も沖縄にはない他の国のものもとり入れています。紅型は職人一人で全部の工程をやらなければならない。今は買えますけど、昔は材料も自分でつくらないとなりません。きれいな作品を作って売るためには、最低10年間は腕をみがかなければならない。私の一年間の研修は体験程度です。そこから続けるか、続けないか決めていくのですが、すいません、私は体験程度の趣味でやっていきたいと思っています。続けるまでの情熱はないです。でも、手芸は好きなのである程度物作りのこだわりや苦労はわかります。その苦労やこだわりを知らない人が「ただ布をぬるだけでしょ?」、「なんでこんなに値段が高いの?」、「来週までに10枚作って」と言っているのを聞いたら腹がたちます。そこをどうしたらいいかと、思いついたことは、どうやってできるのか(工程)を伝えることです。なら、すこしは理解してもらえと思っています。



もし伝統工芸（紅型、首里織、うるし、琉球ガラス）を習いたいと思ったら、気軽にではなくその道を歩む覚悟で入るべきだと思います。それを気づかされました。反省しています。来る前に、専攻する前にもっと情報を集めて計画をたてるべきだった。でも一年前の私にはそう言うことも思いつかなかっただろう。



紅型をやっている方たちは、紅型だけではなく工芸をやっている方たちはすごく面倒くさいことでも時間を上手に使って、目的から目をそらさないで、古いものを勉強して新しいものにチャレンジし、次の世代に受け継いで欲しいと技を教えています。とってもかっこいいです。そう考えてみると、私ですみませんでした。

人間関係：

この県費留学の一年間を八月前、八月後にわけてみるとすごい違いがありました。それは人との関係。八月前の人間関係は同じ県費留学生や研修先の姉さ

んたちぐらいでした。八月にはポリビアの独立記念日、コロニアオキナワ移住地の60周年記念式典などポリビアに関係するイベントがあり、様々な人と出会いがありました。ポリビア、コロニアオキナワ移住地の話で盛り上がり、友達になったり、そして初めて「いちゃりばちょーでー」と言うのを実感できてとってもうれしいです。ポリビア関係ではなくて沖縄の人とも友達になりました。現地の人のお考え、意見交換、留学生同士では気づけないものをいっぱい知りました。私なりにお考え方が変わったと思います。



沖縄に来て、ポリビアにいたころ沖縄の知らないことがわかりました。例えば、基地問題は現地にきてから知ることです。同じく、沖縄の人がポリビアにたいして「こうやればいい、ああやればいい」と現地にいかないで実感しないで話すのも間違っているとおもいます。その国の状況は、その国に住まないとなわか

らないです。悪いことも、良いことも感じることです。

ここからはどうすればいいか：

今までの経験を形にする：JICA国際センターで刺激になったのは、交流はいいけど、交流だけではなくビジネスを作る「思いを形にする」。どうやって私たちがこの一年間学んだものを帰国して伝えるか、どうやってこの一年間でできた横のつながりをいかすのか。友達とビジネスの組み合わせ。どうにかやってみたいと思いがでました。

ルーツを伝える：

私はなんでボリビアにいる沖縄県系人三世なのかわかっていません。でも、次の世代はすごい疑問になると思いますので、沖縄戦を通して日系人のルーツを伝えていきたいです。

沖縄の女性：

沖縄の女性はすごい働き者です。時間をうまく使い、いろんな仕事を短時間でこなします。工房でも市場のおかあさんたちでも、その働き者の魂が見えました。おねーさんたちから「やるのはやる、やらないのはやらない。でも真ん中には立つな、邪魔。迷うな、時間のむだ」と言うのもなりました。でも、この最終段階に一番のこったのは「人を使うときは厳しく」、「はっきりダメなところはダメ」と言う。それで先生がきびしいのだときびきました。自分の意見、思い、考えていることははっきり相手に言わないと通じない。こういうカッコいい女性になりたいです。

自分自身の旅：

この一年間の留学期間で自分を知ることができました。いろんな人の“人生”を聞いて、日本の工芸の工房も体験できて勉強になりました。これからも自分をさぐっていきたいです。

まとめてみると、いろいろとあった一年間の留学生活でした。泣いたり笑ったり、寂しかったり、悲しかったり、楽しかったり、嬉しかったり。自分でも知らなかった自分を見つけました。本当に感謝です。家族に、沖縄県の県費プログラムに、研修先のやふそ先生に、このきかいをあたえてくれてありがとうございました。そしていろいろとすいませんでした。

一年間での出会い、一期一会の人たち、友達になった人、兄弟になった人たちのせいで沖縄からはなれるのが寂しいです。まさかこうなるとは思ってなかったのです。楽しい時間をありがとうございました。

私の沖縄プライドをさがす

フォング サラ アリス ミチ (アメリカ)

沖縄県三線製作事業協同組合

今年は言語の壁や文化の違いなど挑戦ばかりの年でした。なかなか難しかったけど、今年の経験を感謝しています。私のルーツを知りたかったので一年間沖縄に行けることを楽しみにしていました。今沖縄にいる間、沖縄の文化と三線制作も勉強し



ましたが、より多くのことを学びました。自分の力量について学びました。もっといろいろ冒険してみたいと感じるようになりました。異国の地で、自分で物事を成し遂げる自信を持っています。今もっと日本語を理解できるようになりました。このウチナンチュ子弟奨学金をもらったから、よい経験をすることができました。

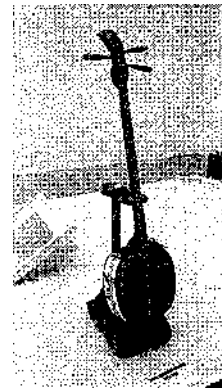
3年前金武町の研修ではじめて三線をひきました。8歳からギターをひいたことがあるので、三線のひき方の習いがかんたんでした。子供の時に、ハワイでいろんな沖縄イベントがありましたから、三線をひく曲がおなじみでした。3ヶ月研修の間に、いつも三線のじゅぎょうをたのしみにしていました。もっと三線について習いたかったです。

金武町の研修を終わってから、沖縄文化の中で音楽と舞踊が大切ときびきました。沖縄音楽を保存したかったです。ハワイで三線をひける人が多いですが、三線作る人がいるかなと思っていました。三線を作れる人がいなければ、みらいの音楽家が沖縄の文化とれきしを伝えられないです。三線をよくひくことができないので、三線の作り方を習いたかったです。後代に三線作りで沖縄文化を伝えることができます。

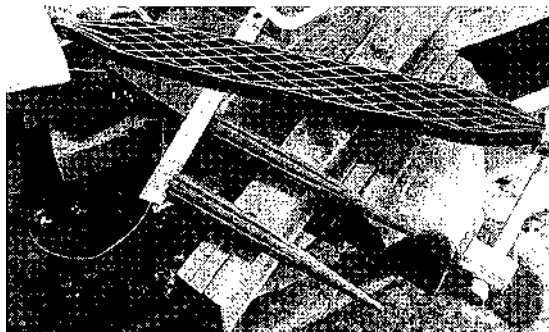


4月から二つ別の店で三線の作り方を習いました。三線組合の人が私にたくさん三線のことを教えてくれたので、とても幸せでした。一年間は短いので、たくさん習うことがありましたから、全ての三線制作を習うことはできませんでしたが、できるだけ習いたかったです。

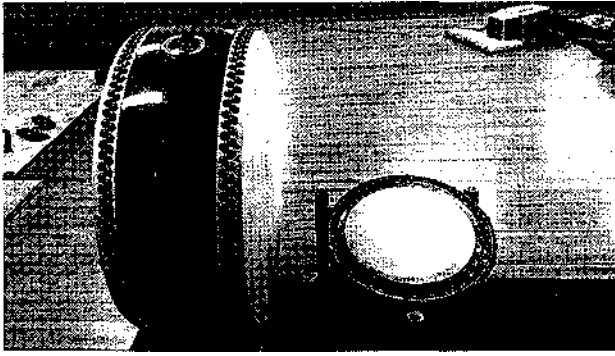
最初から、3ヶ月の間に上原さんの店で2丁マカビ型のさおを作りました。はじめにマカビ型図面から型紙線をひきました。その時尺貫法をはじめて見ました。少しまぎらわしかったです。型紙をやった後で1丁マカビ型のさお作りを始めました。道具を使いこなすのに時間がかかりました。まっすぐ線を削り取る作業は、しばらく時間がかかりましたが、やすりやのみ、のこぎり等の使い方に慣れてきました。最初に作ったさおにちょっとミスをしてしまいました。2回目のさおは少しよくなりました。



7月からキシモトさんの店でほかの三線型を習いました。別の道具を使いました。おびのこぎりを使うことを慣れてからユーター型さおを作り始めました。おびのこぎりとサンダーでもっとはやくさおを作れるようにミスをしたくなかったです。



一年間の間に5丁三線さおとか2丁胡弓さおとかカラクイとか三線立てを作りました。ぬりのやり方を学びました。たくさん習いましたが、まだ習いたいことがあります。ハワイでは自分で三線制作を練習しなければなりません。



10月から沖縄県立芸術大学で琉球芸能の授業を取り始めました。様々な授業を取りました。三線、琴、胡弓、笛、太鼓、ぶよう、日本語のことを学びました。胡弓と太鼓の授業をやった

ことがこれまでありませんでした。太鼓は一番むずかしかった授業です。ちがう楽器で同じ曲をやりましたので、面白かったです。

この琉球芸能の授業を受けることによって沖縄文化で音楽と踊りが大切なことがわかるようになりました。沖縄県立芸術大学の経験をととても感謝しています。三線以外の楽器を学べた事はとてもうれしいです。

沖縄県立芸術大学で琉球芸能に関して情熱家の人に多く会えました。ハワイで若者たちがあまり琉球芸能を勉強しないから、沖縄で多くの若者たちが琉球芸能を習いたいことを知って、びっくりしまし



た。大学生と先生たちはとても親切な人です。分からない時にみんなが手伝ってくれました。沖縄県立芸術大学で琉球芸能の授業に参加できたことが、うれしかったです。

私の沖縄にいる1年間の留学がほぼ完了しました。沖縄にいる若者やこれからくる子弟留学生たちが沖縄の伝統芸能を活性化するため、鼓舞することを願っています。ハワイの多くの若者たちの自分のルーツを学ぶために、このウチナンチュ子弟留学生奨学金へ申請することを奨励したいです。三線制作を学ぶことが楽しかったです。私は三線を演奏できる人がうらやましくなりました。ハワイのウチナンチュの多くが沖縄プライドになる文化的利益を見つけたいです。

今年の間に、いろんな成長と経験をすることができました。三線制作で私のルーツを見つけました。三線製作とほかの琉球楽器のやり方を学んで、もっと沖縄のプライドを感じています。今私の沖縄文化の経験を保存することの大切さが分かりましたので、ハワイの人に学んだことを伝えていきたいと思います。これからも沖縄について学んでいけることを、願っています。

このウチナーンチュ子弟留学生奨学金のために、沖縄でたくさん学んで、経験することができました。やさしい多くの人と友達になることができました。県費留学生たちも私の家族になりました。みんなそれぞれの国に戻りますが、未来にまた会えることができると信じています。それまで、ハワイの人に私の留学経験を伝えなければなりません。県費留学生であることをとても感謝しています。



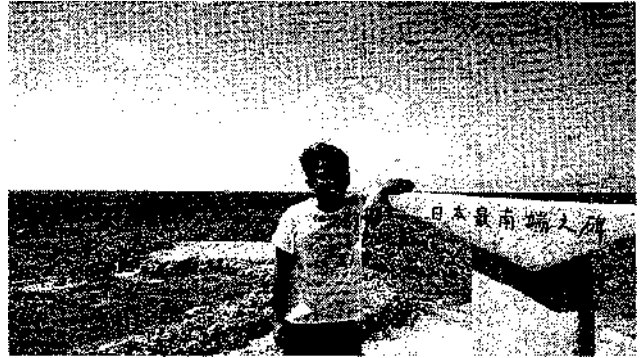
一生の経験

比嘉門 ビートル 秀樹 (ブラジル)

沖縄県立芸術大学

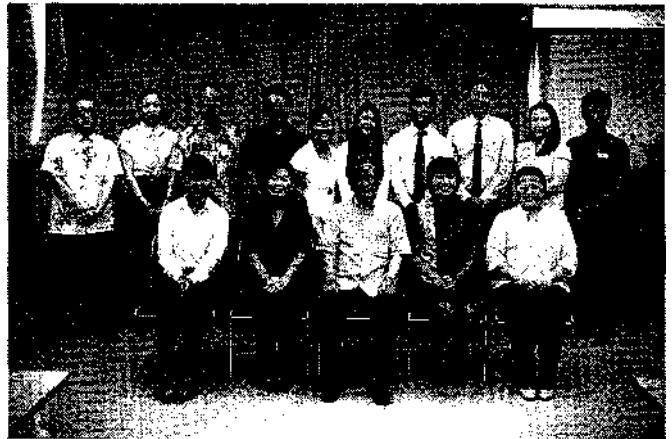
比嘉門ビートル秀樹と申します。ブラジルからきたウチナーンチュ4世です。沖縄へ来るのは3回目です。

初めて来たのは私が8歳のとき、祖父母と一緒に遊びに来ました。このときの思い出はあまり残っていませんが、初めて沖縄に住んでいる親戚と出会ったことを覚えています。



2回目はうるま市海外移住者子弟研修生として沖縄で3ヶ月過ごしました。日本語の勉強だけではなく、沖縄の文化と歴史のことを少し学びました。三線と太鼓を習い、きれいな場所を訪ね、親戚から家族について色々なストーリーを聞く機会がありました。このような色々な経験のおかげで、沖縄のことに興味を持ち、感心するようになりました。

ですから、沖縄について知識を深めるために、いつか戻ることにしました。ブラジルの沖縄県人会の知人を通してこの県費留学のことを知り、その機会を得ることができました。このことは私にとって、沖縄のことを勉強するための適切な方法だったと思います。2013年に県費留学を応募して合格できました。沖縄に住むこと、又沖縄で勉強することなんて夢みたくてでした。



ブラジルでデザインを卒業したので沖縄県立芸術大学で留学することにしました。この1年間、美術工芸学部のデザイン専攻の中で写真、コンピューターグラフィック、映像デザインと作成構成という科目を勉強しました。この科目は映像と動画に関係があるので様々な撮影技術や編集方法を学ぶことができました。

芸大の学生、先生方、事務の方々はみんな優しく丁寧を受け入れてくれました。最初は、日本語があまり上手ではないので少し不安でしたが、みなさんが色々助けてくださって良かったです。

この1年間、才能のある人と共同生活したので写真と動画だけではなく、日本や沖縄の美術について様々なことを学ぶことができました。芸大生と一緒に伊平屋島や糸満でのアートワークショップに参加する機会がありました。そこではコミュニティーと交流ができていい経験になりました。

デザイン専攻の授業だけでなく、日本語も勉強しました。一週間2回他の留学生と一緒に本当に楽しい時間をすごしました。この授業のおかげで日本語が上達できて他の授業ももっと分かりやすくなって嬉しいです。

歴史に興味があるので聴講生として沖縄史の講義も受けました。大変難しかったですが、いい勉強になりました。

沖縄の音楽が好きだし、ブラジルで弾く人が少ないという理由で琉球笛を学ぶことにしました。授業は大変難しいのでまだ上手に弾けませんが、帰国したら勉強し続けるつもりです。

芸大で留学することができたのは、素晴らしい経験でした。



また、この留学でもう一度沖縄に住んでいる親戚に会えてよかったと思います。一緒に過ごした時間は忘れられません。例えば初めてシーミーしたと

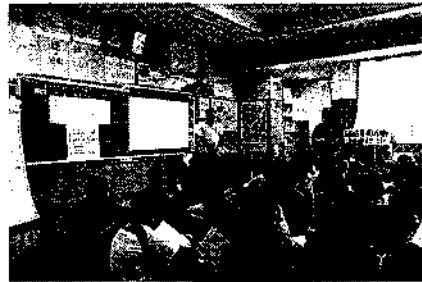
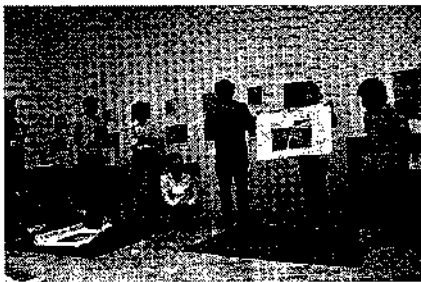
き。ブラジルにこの習慣がないのでとても面白い経験でした。さらに、お盆と正月は親戚と過ごして本当に嬉しくなりました。

自己紹介のとき何回も「比嘉門？この苗字は珍しいね！」と言われました。この珍しさの理由を知るために親戚にきいたり、古い種類を探したりしてみました。知らなかった情報を発見できて本当にうれしいです。祖先の故郷の宮城島にいたときも、家族にとってウフーヤ（大家）などの大事な場所を訪ねて感動しました。この経験をしてから自分のルーツをもっと知るのを大事にするようになりました。

この県費留学の目的は学ぶことだけでなく自分の国のインフォメーションを伝える可能性もありました。JICA フェスティバルや小学校訪問などのイベントでみんなにブラジルの文化を紹介し、移民について話し、交流ができたことはいい経験だったと思います。

さらに、他の県費留学生と共に「移民の日」や留学生交流会などのイベントで色々な演奏をする機会がありました。三線で沖縄の曲と自分の国の曲を弾いて、とても楽しかったです。

WYUA（世界若者ウチナンチュ連合会）のメンバーと一緒に伊江島などの色々な場所を訪ね、交流会をして、良い勉強にもなったし楽しかったです。



県費留学生たちと何度も忘れられない時間を過ごしました。カラオケや居酒屋で楽しんだり、旅行したり、パーティしたりした瞬間の思い出は一生残ることでしょう。一緒にいい思い出を作ることができて、本当に嬉しいです。みんな最高です。



2月に沖縄市国際交流フェスティバルで「OKINAWANDO」という写真展をやることができました。2日間沖縄 NGO センターがサポートしてくださって、この1年間で経験したことについて僕が撮った写真を見せました。このチャンス

を与えていただいて本当に感謝しています。

この1年間沖縄の様々な場所に行きました。歴史的な場所と素晴らしい自然の場所。伊是名島から波照間に至るまで様々な離島を訪ねることができました。琉球王国時代と戦跡の場所も行きました。沖縄はきれいな場所というよりストーリーがいっぱいの場所だと気付きました。

また、いくつかのイベントに行く機会もありました。那覇ハーリーなどの年中行事、祭り、演奏会、エイサー、組踊などを見ることができてとても楽しかったです。私は「沖縄は小さいですが文化が豊かな島」とよく聞きましたが、それは本当だと思います。



優しくて受け入れてくださった沖縄で出会った人々に、沖縄の家族に、心から感謝しています。特に沖縄国際交流・人材育成財団と沖縄県にこのチャンスをいただいたことは一生の大切な宝です。

短い期間ではありましたが、沖縄県費留学生として過ごしたこの1年間を通して、数えられないほどの経験をすることができました。素敵な人々に出会い、素晴らしい場所を訪ね、さらに、大切なことも学びました。

新しい目標を持って帰国します。それは経験したことをシェアしたり、ここで学んだことを社会に伝えたり、そしてブラジルと沖縄の繋がりを深めたりしたいと思います。皆様に大変お世話になりました。心からどうもありがとうございました。



Muito obrigado!

Mi Okinawa

渡嘉敷 国頭 ダニエラ (ペルー)

沖縄県立芸術大学

沖縄来るまえの期待：

1. 日本料理は体にいいし、きっと痩せます
2. 日本に住んだら、一年間で日本語ペラペラになれます。
3. 一年間で私のすべきことをちゃんと決めます。

業績：

1. 健康：6キロ太って、ここで痩せることは無理です。毎週友達と遊んだり、お酒を飲んだり、おいしい料理を食べたりしました。
2. 習慣になれることはまだ出来ているところです。さすが、日本語ペラペラになりませんでした。最初よりうまくなりましたが、まだちゃんとしやべらない。
3. 将来：やっと決めました

沖縄の生活：

沖縄の自然は美しい。ゆったりした生活、自然と人々が相互に尊敬し合い共存している。それは私が生活している時のとめどないインスピレーションの源泉である。私は街で育ったため、それらの夏の間の青い空、白い雲、雨、たくさん緑は私を笑顔にする。

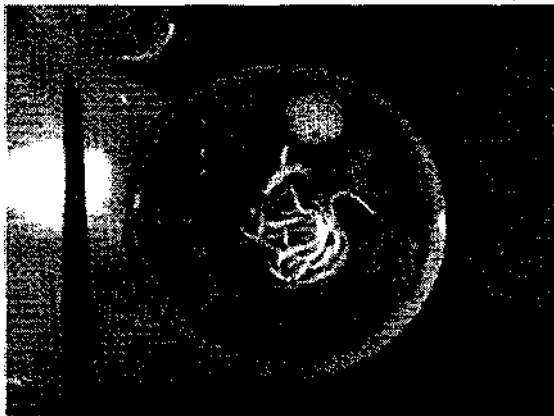


a

b

c

- a. 学校に通っている時みた家が植物で覆われています。
- b. 横断歩道。
- c. 自画像



d.

- d. 沖縄そば。この美味しさ！
食べたら太ってしまいます！

人間は自然の脅威には逆らえない。（台風）沖縄の人々は自然に抗おうとはしない。私は自然に対する忍耐力が付いた。

私の顔は、沖縄の人のようなものである。時々、沖縄の人々に本物の沖縄出身者だと思われることもある。私が沖縄出身者ではないことを知った人は、なぜ私が日本人のような顔をしているのか興味を示す。

私はここで区別されている気がしない。ここにおいても、日本以外の国から来たような気がしない。リマでは私は、大概の人に外国から来たと思われるからである。

芸大・陶芸：



e.

f.

g.

e. ろくろで作った湯飲み

f. 私のワークスペース。

g. 二年生の窯出した物。

今年、私はたくさんのことを学んだ。学校では、日本の工芸だけではなく、日本の同世代の文化と生活もまた学んだ。芸大では、ほとんどの学生は日本人だからだ。それらの半分が本土から来た学生。「お掃除しましょう。」というのは一番大切な学びだったと思う。毎週金曜日、私たちは、自らの作業場をみんなですべて掃除した。チームワークとは、他人を気遣うことだ。リマでは、あまり見なかった文化だ。

私は互いを気遣うこととプライバシーを守ることを学んだ。私は文化の違いを理解することが難しかった。私たちの日常生活において、互いにハグをすることは普通であったが、ここでは、体を使ったコミュニケーションが少ないことにショックを受けた。

私が困って座っているとき、「なぜ彼らは来て助けてくれないのだろう」「なぜ彼らは毎日挨拶してくれないのだろう」と、考えていた。はじめ私は、

みんな互いのことを気にしていないためコミュニケーションを取らないと思っていたが、それは文化が違うだけだった。これは慣れるのに時間がかかったので、今学生たちと仲良くなってすばらしい。芸大の友達と先生たちがいろいろ助けてくれて感謝しています。

ペルーに工芸という言葉はありません。工芸を勉強すればするほど好きになりました。陶芸をすることによって、私はまた私自身について学んだ。私は自分の体を観察できたし、素晴らしい機能的な手足があることに気がついた。自分がどのくらい太っているかに関わらず。

私は自分の気持ちと向き合うことに時間を費やすことができた。毎日6時間、座ってろくろを回すことで、毎回新しいことを発見した。

忙しくて、時間が短くて、気がついたことは、自分のやりたいことをやってなかった。先生たちもやさしいし、もしかしたらチャンスがあったら、ここで勉強したい。

自分の成長：



g.



h.



i.



j.

g. 親戚と食べる時。親戚は来たところからいつもサポートをしてくれて、本当に恵まれていると思います。

h. 県費の最初の誕生日パーティ。皆の誕生日を一緒にしました。

i. 芸大の先生と遊んだ時。ウチナンチュー人と東京人二人。

j. いい人があって、ラッキーです。たくさん遊んで、たくさん思い出を作りました。

家から離れて暮らすことで私は、家族、友達、住んでいた街、そして食べ物の価値を実感した。それはホームシックではないが、たくさんの価値のあることが私の人生に存在していることに気づいていくということだ。

一年間でいい友達を作りました。友情の大切さは思ったより高いです。友達に説明してもらいました。困っているときも、うれしときも、友達がいてよかった。学校のために、芸大の友達が手伝いました。生活のために、県費たちがサポートをしました。家族がいない時、友達は家族になります。Kenpi kidsの性格は異なるので、目的はだいたい同じです。自分のルーツを探すことと、ウチナンチュー日系人のアイデンティティは、私たちの友情の絆だと思います。だんだん友愛は強くなりました。

日本語を忘れないように、国へ帰っても、日本語を続けるつもりです。

この一年間のけいけんでは心からどうもありがとうございました。来てか

ら、やっと自分の将来を考えるようになりました。

ここへ来る前、私は私がすべき仕事や人生において何をすべきか、どこへ住むべきか、どうやって身を立てようか、それらをここで見つけることができると思っていた。しかし、それ以上に大切なことに気がついたのだ。

私は私の家族と私たちのルーツを繋げることで、祖先の誇りになるように生きていきたい。

ルーツを探し、自分を学び

胡 コリン マイケル (アメリカ)

琉球大学

2014年4月、平成26年度のウチナーンチュ子弟留学生として琉球大学で日本語と沖縄の文化・歴史を沖縄に学びに来ました。私はもともとハワイ出身なのですが、沖縄に来る2年前にニューヨークの大学を卒業し、ロサンゼルスで2年間不動産鑑定の仕事をしてしました。ロサンゼルスに住んでいた間に、World Youth Uchinanchu Association (世界若者ウチナーンチュ連合会) の第2回世界若者ウチナーンチュ大会の参加者で沖縄と海外のウチナーンチュに出会い、Okinawa Association of America (北米沖縄県人会) を紹介を受けました。OAAのおかげで、ウチナーンチュ子弟留学のことを初めて知って、沖縄で日本語と文化を勉強するといいいのではないと思いながら、応募してみました。日本語があまりできなかつた私にとって、出願手続きは結構時間がかかりましたし、沖縄に留学したい理由を日本語でうまく説明できなかつたけど、結局、合格しました。

応募していた時、沖縄の大学のことを何も知らずに、琉球大学が沖縄県の一



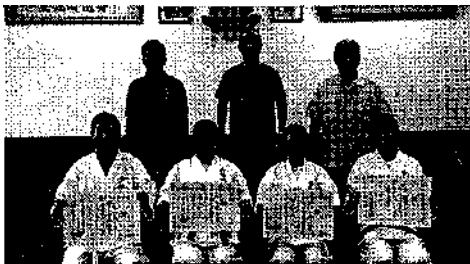
つだけの国立大学で、学生も一番多いといった理由で、琉球大学を選びました。この1年間を振り返ると、琉球大学を選んで本当によかったです。なぜなら、琉球大学の留学プログラムは、やりがいのある宿題、グループプロジェクト、プレゼンテー

ションもたくさんあって、短期間でも日本語がそんなに上達できるのは素晴ら

しいと思うことです。その上、授業でいろいろなところを見て回って、さらに沖縄の観光地以外のところを見学してきました。例えば、沖縄市防災研修センター、沖縄県警察本部、



沖縄市戦後文化資料展示室ヒストリート、浦添ようどれ、伊波普猷の墓、対馬丸記念館、佐喜眞美術館、国立劇場おきなわ、沖縄タイムス本部などのような沖縄の人でもあまり行ったことない場所まで行ってきました。授業にも、沖縄の民間信仰、清明、モーアシビ、結婚式、米軍基地問題、伝統工芸、伝統行事、琉球語といった沖縄の文化的な細かいことを学んできました。歴史的に、グスク時代から、三山時代、琉球王国、移民の時代、沖縄戦前・戦中・戦後、日本復帰、現在までの長い歴史を全部勉強してきました。私が琉球大学で勉強した1年間を振り返ると、すごく総合的な経験になったと感じます。



この1年間に、学校以外の興味のあることの2つを自分のやる気で学んだのは、空手と島言葉です。琉球大学の先輩が紹介してくれた、小林寺流求道館宗家道所に入って、3つの型を習って、一級の茶帯までとれました。沖縄に来る前、小さい頃からずっと空手を習いたかったのですが、チャンスはなかなか無かったです。それで、沖縄にきた時、ぜったい空手をやってみようと思いました。うちの道場は与那原町にあるから週に2回ぐらい遠くまで行かないと行けなかったのに、人は少ないので、先生との直接の練習時間をできるだけ生かすように、頑張りました。

もう1つの興味のは、沖縄の元の言葉、つまり「島言葉」です。私の先祖はもともと日本語ではなく、島言葉で話していたのです。ですから、先祖の言葉が話せるようになることで、私は先祖との繋がりがより強く感じられるようになったのです。前から、ハワイでも島言葉を少し勉強していましたので、沖縄に来て、改めて島言葉を勉強し続けようと思いました。そこで、週に一回の勉

強会で島言葉を勉強することにしました。勉強会では島言葉のネイティブ・スピーカーの話参考にして、表現や発音などの勉強になり、さらにクラスメートとのゲームで島言葉を楽しく勉強できました。アメリカでは、このような勉強会は少ないので、い



いチャンスだなと思いました。そして、2月に開催された沖縄県外国人による日本語弁論大会でも島言葉を大切にしたいという気持ちを伝える「にぬふあ星」というスピーチをし、優秀賞を受賞しました。スピーチの原稿を書くのは時間がかかって、暗記するのは大変だったのですが、結局、自分の沖縄の若者向けの島言葉についてのメッセージを伝えられたので、参加して本当によかったです。



最後に、アメリカに帰っても、学校より、空手より、島言葉の勉強より、一番強く思い出に残ったことは、人との繋がりで、沖繩に来る前、私の沖繩にいる友だちは少なかったのですが、この1年間にたくさんの新しい

友だちができて、親戚ともより仲が良くなってきました。今回沖繩に来て、初めて会った親戚と友だちがたくさんいるので、この1年間が終わっても、お世話になった親戚に、一緒に遊んできた友だちに、兄弟にな



ってきた県費の皆さんに、これからもよろしくお願ひしますという気持ちでアメリカに帰っていきます。「イチャリバチヨーデー」という沖繩の表現をよく聞きますが、この1年間にその本当の意味を初めて理解できて、その気持ちを感じられるようになりました。



ぐすーよー、くりから ゆたさるぐとう
うにげーさびら。いっペー にふえー で
ーびたん。

沖縄大好き♥忘れられない思い出

名嘉眞 新垣 クリスティー メラニー（ペルー）

琉球大学

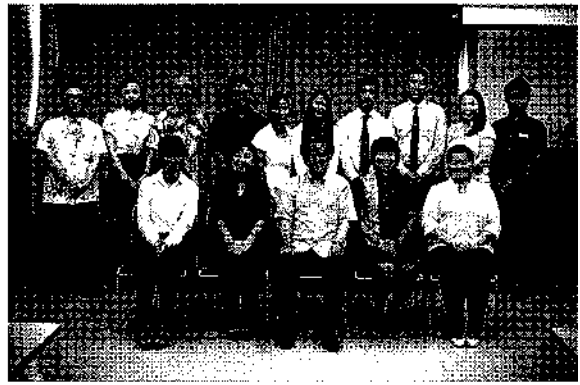
4月8日に沖縄について、4月11日から大学が始まりました。最初はちょっと大変でしたが、どんどん沖縄での生活はなれるようになりました。初めて一人暮らしをして、親にすごく感謝をしないといけないと思いました。今まで親と住んでいて、親は子供のために色々やってくれるのを今、分かりました。



5月に沖縄県副知事表敬を県庁で行って、沖縄の偉い人に会うことができ、ありがたかったです。副知事と会うことはなかなか難しいと思います。副知事が言ったように、「沖縄は本島だけではなく、離島も大切ですよ。沖縄のすべて行ってみてください。」沖縄の離島もできるだけ多く行ってみたいです。

5月25日に沖縄県国際交流・人材育成財団の理事長表敬を行い、理事長と話ができて、よかったです。県費として沖縄に来た留学生が500人以上いることをはじめて知りました。

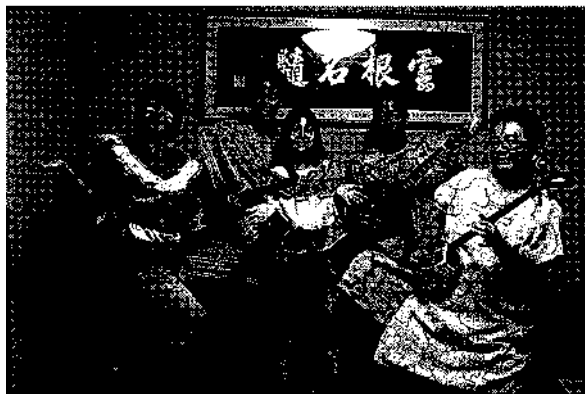
大学の見学でアブチラガマに行きました。行く前に沖縄戦について色々勉強しましたが、実際ガマに入って、沖縄戦は恐ろしい戦争だったということがはっきり分かりました。ガマの中では多くの人が避難して、そして命を失った人も多数います。



6月23日の慰霊の日に県費みんなでひめゆりの塔と平和記念公園に行きました。沖縄戦について色々考えて、悲しい、嬉しい一日でした。

7月からはどんどん暑くなって、毎週海に行きました。沖縄の海はきれいで波がないので泳ぎやすいです。大学の授業で佐喜眞美術館に行って、戦争の話を聞きました。

7月28日はペルーの独立記念日があって、ダニエラとコリンとヒデキとりょう、5人で演奏をしました。すごく楽しかったです。もう一回みんなでムヘール・イランデーラを演奏したいです。お客さんのみんなも参加をして、楽しい時間を過ごしました。



8月からは夏休みに入って、週4回くらい海に行きました。兵庫友愛キャンプに参加して、すごく勉強になりました。そこで、沖縄県と兵庫県の若者たちと交流をして、沖縄戦について勉強しました。アブチラガマと県庁ガマに入って、当時の生活を実験することができました。



9月にお母さんが来ました。お母さんと沖縄の観光地に行って、古宇利島、瀬底島、伊計島、座間味島と阿嘉島に行きました。毎日海で泳ぎました。スキューバダイビングとシュノーケルもやりました。楽しい10日間をお母さんと過ごしました。

夏休み終わる前に県費留学生で石垣島、竹富島と西表島に行きました。離島っていいなと思いました。海はきれいし、人も優しいし、島に多くの魅力があると思いました。

10月には学校が始まって、新しい留学生が来て、私のクラスがにぎやかになりました。ウクライナから1人、韓国から1人、ベラルーシから1人、スエーデンから1人、リトアニアから1人、インドから1人、ドイツから1人、タイから1人中国から1人が琉球大学に来ました。世界中の多くの人と勉強することができて、とてもうれしいです。

沖縄に来て、いろいろな島に行って、ペルーへ帰る前までには沖縄の多くの離島に行ってみたいと思っています。WYUAの人たちと市町村の人たちと伊江島に行きました。そこで一泊し、交流をしました。今年最後に入った海は伊江島の海でした。海はきれいで、伊江島塔頭も上りました。ちょっと大変でしたが、楽しかったです。



1 1月には JICA フェスティバルで県費のみんなでワークショップをやって、沖縄のルーツについて話しました。私たちは沖縄に来るチャンスを与えられて、本当にラッキーだと思います。

1 2月には沖縄の留学生のためのパーティーで県費が歌いました。今までで一番大きな会場で一番人が多くて、一番恥ずかしかった演奏でしたが、思い出に残るから楽しかったです。こうやってみんなで恥ずかしいことをたくさんやっていて、よかったです。一人ではなくて、よかった。

琉大で県庁と沖縄県議会に見学に行きました。また、JICA でイベントがあって、太鼓を2時間くらいたたきました。手が痛かったが、いろいろな音ができたり、みんなで協力して、音楽を作ったりしましたので、よかったです。

1 2月26日に県費と他の友達とクリスマスパーティーをやりました。みんなで料理を作って、美味しかったです。県費たちは私の沖縄の家族です。

お正月は与那原で初日の出を見に行き、2日は親戚の家に行きました。親戚はいつも優しくしてくれるから、ペルー料理を作ってあげました。親戚が美味しい、美味しいと言いながら全部食べてくれました。うれしかったです。



1月はとても忙しかった時でした。大学のスピーチ大会があって、原稿を書くのは時間がかかりました。どうすれば私は言いたいことを言葉で表せばいいか全くわからなかったです。いつも自分の頭の中で考えていたことや心の中で感じていたことを人に伝えればいいかわかりませんでした。人生で初めてスピーチをしました。最初は嫌でしたが、いい経験になりました。スペイン語でもやったことがないから、いきなり日本語で?!と思いました。大会の時に友達に来てくれて、話を聞いてくれてうれしかったです。とても緊張しました。言いたいことを伝えたかなと思いました。

小学校訪問をして、子供たちにペルーについて話して、ちゃんと聞いてくれるなと思いました。答えるのは難しい質問されて、沖縄とペルーどっちが好きなの?と質問されて、どっちも好きだから、ちゃんとした答えはしなかったです。小学校訪問して、世界に出るのはとても大切だと思いました。沖縄に来たおかげで世界中からの友達ことができました。



2月はクラスの友達と南部行って、セイファークーに行き、沖縄のことをもう少し知りました。沖縄事情でセイファークーについて勉強したことがあったから、行って、自分の目でみて、よかったです。景色もきれいでした。友達との距離も短くなったと思います。

7日に弁論大会があって、とても緊張しました。親戚が来てくれて、私の話を聞いてくれてうれしかったです。私が考えていることを知ることができました。沖縄に来ると言われたときにまさか日本語でスピーチをすると思いませんでした。

11日から14日まで兵庫県で友愛キャンプがあって、とても楽しい時間を過ごしました。スキーも久しぶりにやって、楽しかったです。兵庫県は寒かったですが、キャンプの参加者はみんな熱いです。20年前にあった地震について勉強して、とても大変だったのだなと思いました。自然は怖いです、何が起るがどうか分かりません。今の神戸はとてもきれいです。人が人と協力したら、何でもできそうという感じがします。このキャンプで兵庫県の若者たちだけでなく、沖縄の若者たちと交流ができてよかったです。



感想

大学の授業で一番印象に残ったことは平和学習です。琉球大学で1ヶ月をかけて、平和学習について勉強しました。ペルーでは沖縄の伝統的な楽器や踊りを結構練習する人がいますが、歴史を知っている人は少ないです。

沖縄はこんなに被害を受けたことを全く分かりませんでした。沖縄戦は沖縄の住民には本当に酷い、怖い、恐ろしい戦争だったということを知りました。日本政府は沖縄のことを捨て石作戦として行い、沖縄の人たちはなぜこんなにいやなことをさせられたのかを考え続けます。

私は一人で東京に旅行して、東京についたときにとっても悲しくなりました。県費たちがいないから寂しかったです。9日間ずっとみんなに会いたかったです。

す。そして、本土で気付いたことがあります。沖縄の人はとても親切で、明るいのです。人だけではなく、この島は素晴らしいです。海も空もとてもきれいで、自然もきれいです。人がのんびりしていて、最高です。歳とったら、絶対に沖縄で過ごしたいと思っています。そして、沖縄の人たちはみんなウチナーンチュで、どこの国から来てもウチナーンチュ扱いしてくれるのです。本土では沖縄のルーツがあると言ってもやっぱり外国人だなと言われるのです。だから、日本で生活をしたら、絶対に沖縄で生活をしたと思っています。

ウチナーンチュは沖縄のことが大好きで、多くのイベントがあり、文化を守ろうとしていることがわかりました。これは、素敵だと思います。沖縄だけでなく、世界のウチナーンチュは沖縄文化を守ろうとしています。

この経験はとても良かったです。沖縄に来ることができて本当によかったと思います。沖縄に来ることで、自分は成長したと思います。自分で自分の面倒を見ないといけない、お金の使い方をちゃんとしないといけないなどいろいろあります。でも、一番大切なのは私のルーツを知ることができたことと県費留学生と出会ったことです。この9名で沖縄に来て、とてもうれしいです。誰一人も変えたくないのです。県費たちは私の沖縄の家族です。今は別々の道を歩むのですが、心はいつも一緒です。ですから、どこ行っても私たちはこの1年間を一緒に過ごしたことを忘れられないのです。みんなと離れるのはとても嫌で、早くみんなと再会できたらいいなと思います。絶対に再会すると思います。みんなの時間は厳しいが、家族だから再会すると思えば、できます！



「島人ぬ宝」の追求

照屋 ルジア 美雪 (ブラジル)

沖縄国際大学

僕が生まれたこの島の空を 僕はどれくらい知っているんだろう
輝く星も流れる雲も 名前を聞かれてもわからない
でも誰より誰よりも知っている 悲しいときも嬉しいときも
何度も見上げていたこの空を

ブラジルの沖縄県人会のパーティーではビギンの「島人ぬ宝」はいつも流れていたという記憶があります。子どものときから、沖縄県人会に通っていて、その曲を耳にしていたのですが、意味が全く分かりませんでした。しかし、三線の音を聞くだけで、心の中には何かが響きました。



私は沖縄県系人の3世で、家庭ではほぼポルトガル語でコミュニケーションをして、日本語の単語をめったに話しませんでした。しかし、幼いころから、父がオーバーと話しているときに使っていた言葉に興味があり、サンパウロ大学の日本語学科に入学することにしました。仮名から勉強し始めて、日本語が話せるようになり、島人ぬ宝の歌詞の意味をやっと理解できました。ただし、父が話している言葉は日本語ではないことに気づき、沖縄の言葉や文化に興味が沸きました。

2008年度海外移住那覇市出身研修生として、初めて沖縄に来ました。2ヶ月の研修で、あまり日本語が話せませんでしたが、日本語と沖縄の文化を学び、とても楽しかったです。帰国して、いつも「もし日本語がもっと上手であ

れば、もっと勉強ができたはず」と考えていました。

2010年、文部科学省の奨学金をもらい、大阪大学で一年間日本語を勉強しました。そのとき、また沖縄に戻り、研修生のときにお世話をしてくれた人に再会することができて、とても嬉しかったです。沖縄は第二の故郷で、またいつか沖縄に戻ると信じていました。

2013年に大学を卒業しましたが、オジーの故郷である沖縄のことはどれくらい知っているかと疑問に思い、県費留学プログラムを応募して、2014年度の県費留学生として、また沖縄に戻りました。この留学の目的は日本語の勉強だけでなく、沖縄のことを学ぶことです。島人ぬ宝を探すため旅に出ました。

この島のことを僕はどれくらい知ってるんだろう

沖縄国際大学で外国人科目等履修生として日本語や沖縄文化を勉強しました。日本語や沖縄・日本事情の外国人向けの授業を受けて、日本語が上達しました。特に、敬語や日本語での発表の練習ができて、以前より人前で話す能力が伸びたと感じました。

それに加えて、共通科目も聴講し、沖縄の民族・沖縄の歴史・コミュニケーション論・沖縄の言語・沖縄の宗教・沖縄の基地問題・教育学という科目をとって、沖縄文化や自分の専門分野を勉強できました。ブラジルで日系人がやっている習慣の意味を理解できて、帰国したら家族や沖縄県人会に是非広げたいと思います。さらに、自分の専門分野を日本の見方で勉強し、新しいことに気づきました。

沖縄国際大学での勉強の学習成果として3つ挙げられます。一つ目は前期で上演した「杜子春」の劇です。その劇で、留学生の皆で、練習や準備と一緒にやって、とても楽しい経験でした。

二つ目は第20回沖縄国際大学日本語スピーチコンテストで優賞したことです。演題は私が大切にしているオジーの門中で、那覇市研修のときに会った門中の方々への感謝の気持ちを言葉にしたものです。その結果、「第32回外国

人による日本語弁論大会」に出場しようと思いましたが、結局、そこで優賞できませんでしたが、門中のおばさんの笑顔を見ただけで満足しました。三つ目は日本語能力試験の1級に受かったことです。日本語や沖縄のことについて色々学び、そのような貴重な知識を身につけることができたので、沖縄国際大学を選んでとてもよかったと思います。



教科書に書いてあることだけじゃわからない

大学での勉強のみならず、日本人と外国人と交流ができて、とてもよかったと思います。沖縄国際大学は留学生が少ないですが、マカオ・台湾・インドネシア・中国・アメリカ・フランスからの留学生と一緒に勉強して、多文化を知ったことで自分の視野を広げることができました。



それに加えて、WYUA（世界若者ウチナーンチュ連合会）のミーティングやイベントに参加して、若者と一緒にウチナーンチュアイデンティティについてディ

スカッションをしたり、市町村研修生との交流もしたりして、とてもいい交流ができました。

その上、沖縄の若者と交流イベントにいくつか参加しました。8月に第42回兵庫・沖縄夏期友愛キャンプに参加しました。沖縄と兵庫県の関係の歴史について知り、両県の青年との交流も、貴重な経験でした。また、2月に第42回兵庫・沖縄冬期友愛キャンプに参加して、兵庫と沖縄県の絆の強さを実感しました。その絆はこれからの沖縄の未来と繋がっていると思います。

12月に早稲田大学卒業生の志良堂さんが計画してくれた冬の沖縄フィールドワークに参加し、ガマや辺野古を見学して、基地問題について色々ディスカッションして、とてもいい勉強になりました。沖縄の基地問題について考えたことで、ブラジルにもそのような情報を伝えるべきだと改めて感じました。

沖縄で人との繋がりを通して、歴史の勉強やイチャリバチョーデを感じ、素晴らしい経験でした。大学の図書館やインターネットで勉強するよりも、肌で感じることは一番印象的だと気づきました。

砂にまみれて、波にゆられて、少しずつ 変わってゆくこの海を

沖縄といえば、綺麗な海だとよく言われます。せっかく沖縄に来たので、離島に行きました。私はカナヅチで、ブラジルでも海にあまり行きませんでした。しかし、沖縄の海に憧れて、他の県費留学生と一緒にいき、海が好きになりました。

慶良間諸島、石垣島、西表島、波照間島、竹富島、伊江島へ行き、離島の透明な海を見るだけで、嬉しかったです。



テレビでは映せないラジオでも流せない



沖縄国際大学の近くにあるNGOセンターに通っていました。そこで元県費留学生の松本紗登美さんと一緒に「Noites de Brasil〜ブラジルを知ろう〜」というポルトガル語サークルを開きました。

ポルトガル語だけではなく、ブラジル文化を紹介するイベントも開き、とても楽しかったです。

サークルだけではなく、NGOセンターのボランティアとして活動しました。ウチナンチュ移民のみならず、多文化共生、国際理解教育、開発教育に関して色々学び、自分の世界の視野が広がったと感じました。ウチナージュニアスタディや出前授業で手伝いして、ワークショップや教材の作り方等、様々なことを学びました。

沖縄国際大学で得た知識を形にする方法を学ぶことができたので、このセンターに通ってよかったと思います。

大切な物がきつとここにあるはずさ



両親の親戚は小禄出身で、那覇市研修生のときに初めて会ってから、ずっと連絡をとっていました。この一年間、親戚と関わることができとても嬉しかったです。門中のおばさんはいつも私のために色々なご馳走を作ってくれて、本当に嬉しかったです。同じ門

中ということで、大変お世話をしてきて、心から感謝しています。帰国しても、ブラジルと小禄との繋がりが途絶えないように架け橋になりたいと思います。

いつの日かこの島を離れてくその日まで 大切な物をもっと深く知っていたい

県費留学生として自分の国と移民の歴史について語る機会がたくさんありました。その中から二つが挙げられます。

6月には沖縄県立博物館・美術館において、JICAによって開催された「雄飛—沖縄移民の歴史と世界のウチナーンチュ」という巡回展示に、NGOセンターの皆さんと一緒に、フォト・ランゲージやカルタというワークショップを行い、沖縄県民と交流ができました。そして、11月におきなわ国際協力・交流フェスティバルで、移民パネルの説明もして、県費留学生のオリジナルカルタを作り、自分の国を紹介するワークショップも行いました。県費の皆で形になったものを作ることができて、とても満足しました。

そのような活動で、移民の歴史や自分のルーツについて色々学び、ウチナーネットワークの大切さを実感しました。



それがみゆきぬ宝



私の旅はそろそろ終わります。ところが、この一年間はただ島人ぬ宝のみならず、「みゆきぬ宝」もを見つけました。アメリカ、アルゼンチン、ペルー、ポリビアから来た県費留学生と一緒に、様々な

経験をして、家族のように沖縄で暮らしました。皆はウチナーンチュで、心は繋がっていることに気づきました。沖縄の生活はうれしいことも悲しいこともありましたが、県費留学生はお互いに助け合い、とても強い絆ができました。別れるときは寂しいはずですが、またいつか会える日を楽しみにしています。



この一年間を振り返ってみるととても成長したと思います。ブラジルの移民歴史や文化のみならず、自分のアイデンティティについて考え、ブラジルを誇りに思うようになりました。

この留学でそのような宝ものができる、とてもうれしく思っています。その宝物を活かすために、ブラジルウチナーンチュでブラジルと沖縄の国際交流のために、なにかしたいと思います。

県費留学生としての生活が終わりますが、それは新しいスタートだと思っています。皆さん、これからも改めてよろしくをお願いします！ Até logo!



新しい角度から見た沖縄

新垣 ホセ ルイス (アルゼンチン)

名桜大学

アルゼンチンから来た新垣ホセルイスです。私の父の両親は沖縄の人です。私はアルゼンチンで生まれ、小さいときから沖縄の文化や沖縄の言葉などに興味があります。沖縄県のおかげで、この留学で私の先祖の所へ行くことができました。一年沖縄に住んでいて、忘れない経験になりました。

私は沖縄に初めて来ました。日本も初めてです。日本に他の県費留学生と一緒に来ました。彼女の名前はバナサです。これは私たちの親戚が迎えてくれたときの写真です。この日、私は初めて会いました。



名桜大学で日本語を勉強しました。私が住んでいたのは名桜にある留学生センターという寮です。



この寮には色々な国から留学生がたくさんいます。皆は私のような日本語を勉強していて、同じ興味があつて、私は友達がたくさんできました。それで、この一年で学んだことが多いです。

名桜大学にある言語を学習する場所で名桜生にスペイン語を教え、日本人の友達ができ、いい経験をすることができました。

そして、名桜大学と名護に交流できるアクティビティに参加しました。毎日生活していて、とてもよかったです。



これは日本語の授業の最後の日の写真です。みんな、日本語で自分の国の料理を紹介しました。

私はスペイン語のワークショップを開きました。1週間に1回、名桜生にスペイン語を教えました。これはワークショップのときの写真です。



毎日沖縄県人会関係者の人と話して、沖縄の生活について知ることができて、たくさん学びました。



名護で撮った写真です。毎週1回、写真にいるメンバーが集まって、食事したり、しゃべったり、飲んだりします。この日は私が参加して、多くの人と交流できて、良かったです。私が初めて食べた料理も美味しかったです。

名護市のクリスマスパーティの写真です。
この日にはたくさんスペイン語が話せる人が来ました。そこでペルー料理を食べました。そして南米の音楽を聞いて、少し懐かしかったですが交流できて、自分の国に住んでいる日系人について学ぶことができました。



名護の21世紀ビーチに行ったときの写真です。海へ行ったり、泳いだり、景色の美しさを見たりするを楽しみました。

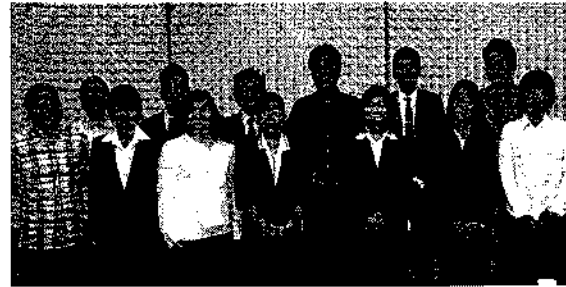
名護の桜祭りの写真です。そこでエイサーやシーサー踊りなどのパフォーマンスを見ました。私は沖縄の伝統的な芸術を見て、沖縄の文化をもっと知ることができました。



名護市のエイサーフェスティバルの写真です。私の日本人の友達がこのフェスティバルを紹介してくれて、私は彼と一緒に見にいきました。そこで料理を食べたり、エイサーを見たりできて面白かったです。

2014年の沖縄県の県費留学生は9人です。私は他の県費留学生と一緒に留学経験をシェアして、仲がいい友達になりました。この一年で皆と色々な沖縄県のイベントに参加して、沖縄県人との繋がりを深くなりました。

県費留学生記念写真です。

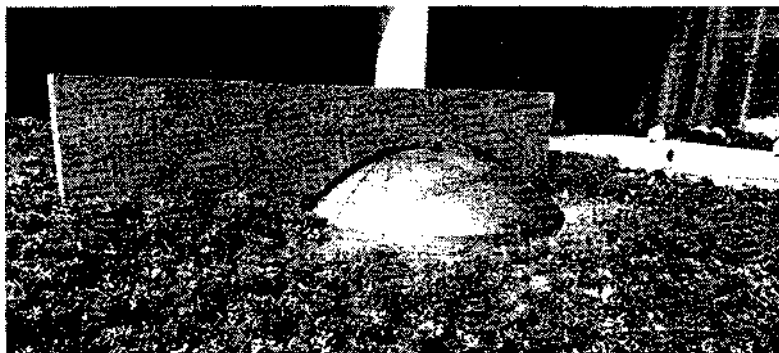


沖縄県の留学生等親善交流会の写真です。私と他の県費留学生と一緒に、曲を三つ演奏しました。この交流会には色々な国から来た人がたくさん参加しまして、私たちは交流できて、とてもいい経験になりました。



一年で私は県費留学生と色々なイベントやアクティビティなどに参加して、沖縄の資料館も行って、学んだことが多いです。その中で一番いい経験だと思うのはJICA横浜研修です。

戦争の悪いことを他の視点から見て、戦争について、新しいことを知ってきました。そして、移民や日系とJICAのことも学びました。JICA横浜には二日間しかいませんでしたがいい経験になりました。



県費留学生たちは友愛キャンプという交流会に参加しました。沖縄と兵庫の友愛の深めるための交流です。友愛キャンプは二つありました。夏にあった交流会には兵庫の人が沖縄に来て、沖縄で楽しみながら沖縄文化を学んだり、交流したりしました。最後の交流会は兵庫でありました。沖縄の人は兵庫に行って、そこで交流しました。



沖縄にあった友愛キャンプで紅型を作ったときの写真です。私はこの日にびんがたを初めて作りました。沖縄の伝統芸術を深く知るにいい機会でした。



兵庫での友愛キャンプの写真です。みんなスキーをして、とても楽しかったです。この日に初めてスキーをする人も多かったです。その後、温泉に行つて、私は温泉にも初めて行きました。夜は交流アクティビティをしました。

沖縄県の県費留学生として、この留学は私の忘れないステージです。消えない思い出がたくさんあります。私は国へ帰っても、どこへ行っても沖縄で学んだことやこの留学の経験や祖先の重要性などをもって帰ります。それを伝えるつもりです。

沖縄での素晴らしい生活

新垣 バネサ (アルゼンチン)

名桜大学・一般財団法人沖縄美ら島財団

こんにちは。私の名前は新垣バネサです。アルゼンチンからきました。去年の4月8日、ホセさんと一緒に沖縄にきました。空港では親戚が私たちを迎えて下さり、一緒に名護の名桜大学まで行きました。

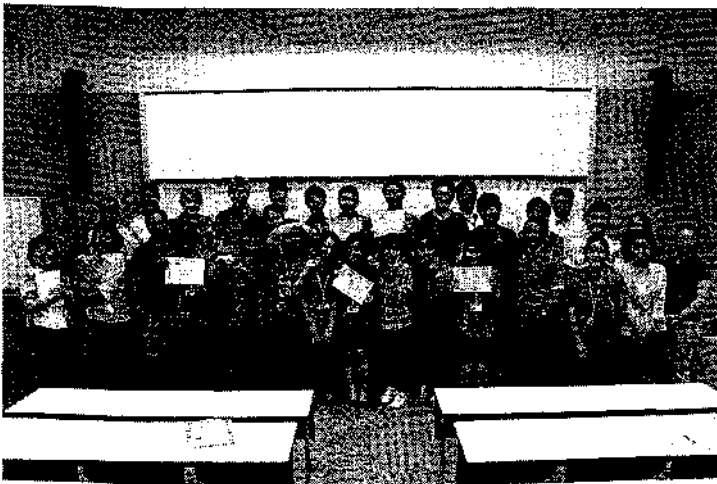
私が名桜大学を選んだのは、やんばるにあったからです。私はやんばるに住んでみたいと思っていました。どのような学生がいるのかは全く知りませんでしたが、来てみて、とても気に入りました。最初に会った時からみんなとても優しく、私がまだ日本語でコミュニケーションが全くできなかったにも関わらず、みんなが私を手助けしてくれました。名桜大学の学生寮に住んで、様々な国の学生と知り合うことができました。他の国々の文化や習慣を学ぶことができたのは、とても貴重な体験でした。名桜大学にくるまでタイや、東ティモールや、イギリスなど色々な国の人々と知り合うことは一度もありませんでした。



名桜大学のスペイン語の先生は、アルゼンチンとペルーでスペイン語を勉強した女性の先生でした。先生もまた、いつも私を手助けしてくれました。一緒に過ごしているうちに彼女は私の大切な友達になりました。



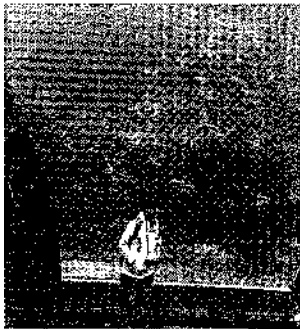
名護に住んでいる間、三線のクラスを受けました。三線教室は儀保さんという方のお宅でした。儀保さんはとても優しくて素晴らしい方で、いつも私を歓迎して下さい、手助けしてくれました。



10月から、本部町に引っ越し、ちゅら島財団で実習を始めました。西原先生は私にやんばるの海岸の自然環境について教えてくださいました。また、2人の同僚と一緒に、本部と名護のさまざまな場所を調査しました。彼らは私に、沖縄の海の生活を教えてくださいました。



また、ちゅら島財団が開催するさまざまなイベントにも参加しました。そのおかげで、私が知りたかった環境教育についても学ぶことができました。沖縄に来たときに一番、興味を持ったのはビーチが清潔で、自然が保護されているということでした。



当初から興味があったのは沖縄の文化でした。沖縄の音楽は、私の祖父母を思い出させてくれました。また、沖縄の文化を知るために祭りにも行きました。





私の沖縄の親戚はまるで私をずっと知っていたかのように、あたたかく受け入れてくれました。つねおさんご夫婦は、私が日本語でほとんどコミュニケーションができないにもかかわらず、とても良くしてくださり、訪問するたびに私を笑顔にしてくれました。一緒に外出したり、お盆など親族の行事にも参加させてくださったり、私も家族の一員であることを実感することができました。ことあるごとに、つねおさんご夫妻とは電話で話したり、はがきを書いたりしました。帰国しても、お二人への感謝の気持ちは決して忘れません。



昨日、この一年間で知り合ったもっとも素敵なふたりの友人とお別れをしました。タイ出身の私の友達は、なんでもできる強さを私に教えてくれました。もう一人の大切な友達、北海道出身の友人は、限りない寛大な心を持った人です。



県費留学生の友人たちとはすばらしい時間を共有しました。一緒に旅行したり、出かけたりしました。彼らとは住んでいるところは、はなれていましたが、彼らと仲良くなるのに距離は問題ではありませんでした。彼らと過ごす時間はいつもすばらしく、ハグであいさつしました。私は彼らのなかで一番年上でしたが、年齢なんて関係ない本当の友達だと感じていました。



最後に、ここでのすべての経験が私の人生を変えました。私は沖縄で人々の笑顔と、私の心を喜びで満たしてくれるたくさんの友達と出会いました。そして、自然を尊重することを学びました。友情には言語や国境は関係ありません。平和は人生に幸せと愛を与えてくれます。本当にありがとうございました。





JICA フェス 移民カルタ (ワークショップ) ①



JICA フェス 移民カルタ (ワークショップ) ②



JICA フェス 移民カルタ (ワークショップ) ③



JICA フェス 各国パネル展示模様①



JICA フェス 各国パネル展示模様②



JICA 横浜カフェテリア (世界の料理を堪能)



JICA 横浜にて自国紹介



JICA 横浜らら記念碑見学



JICA 横浜資料館見学①



JICA 横浜資料館見学②

平成26年度 ウチナーンチュ子弟留学生修了報告書

発行 公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒901-2221

沖縄県宜野湾市伊佐四丁目2番16号

TEL: 098-942-9215

FAX: 098-942-9220

